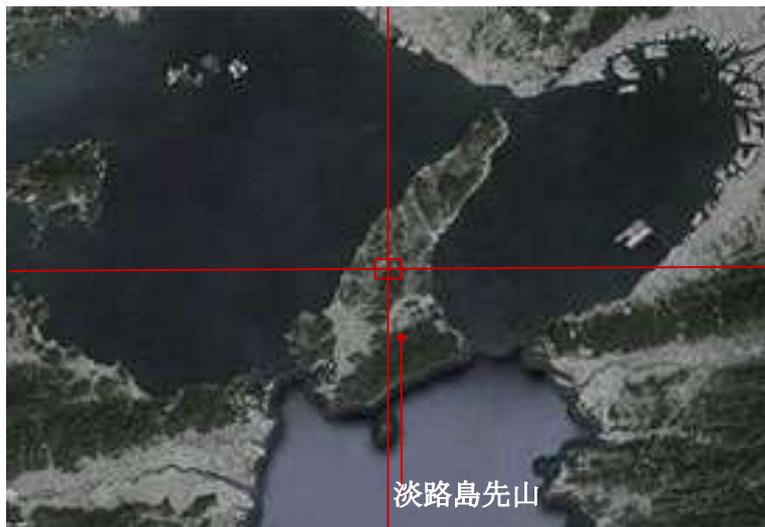


地紋

～淡路島粘土再生を生かした棚田のこれから～



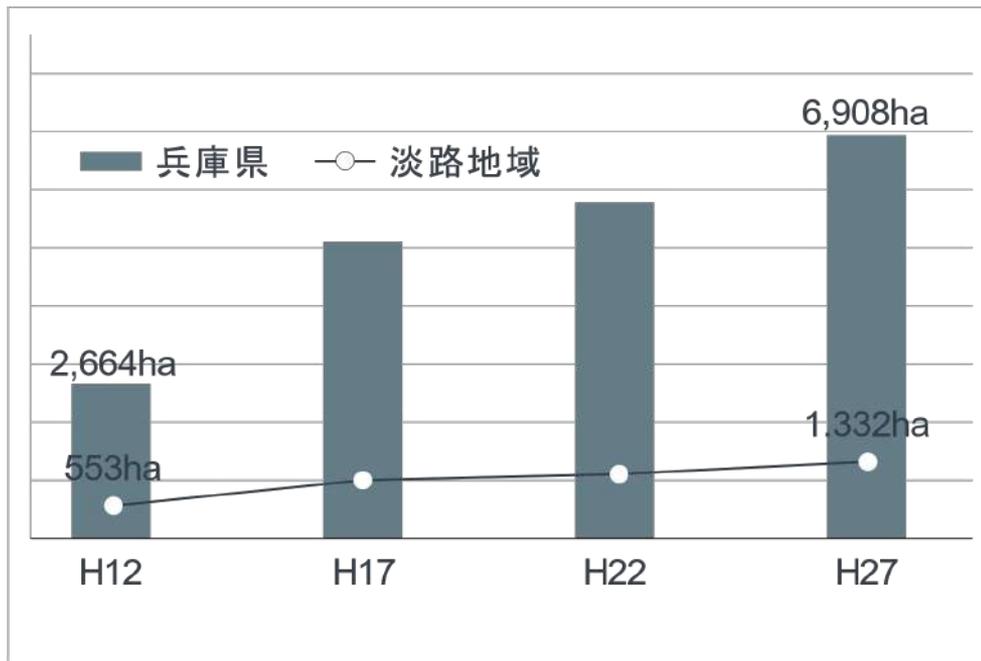


敷地

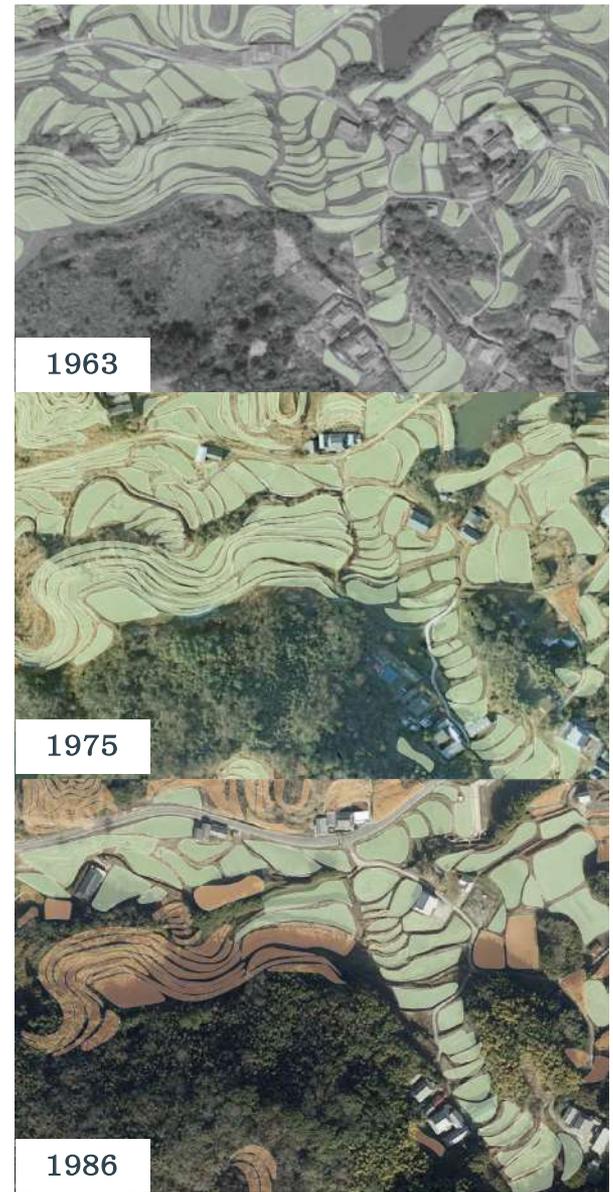


背景: 棚田における放棄地の増加

耕作放棄された農地面積の推移



耕作放棄地の増加



- 利用されている棚田
- 放棄されている棚田

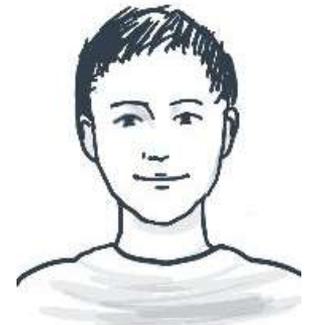
粘土についてのヒアリング



土の美術館
SHIDOの方



南あわじ産業
文化センターの方



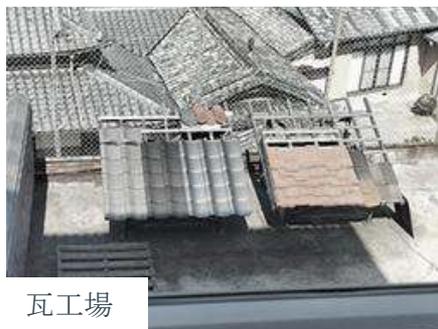
淡路瓦製造元
(株)タツミの方



淡路島の粘土



瓦の街並み



瓦工場



新しくできた窯処

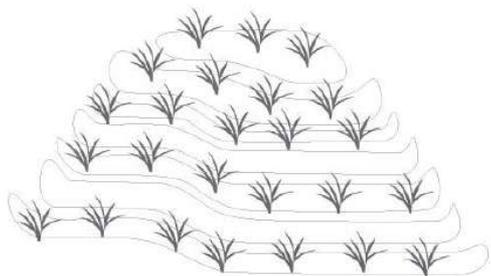


採掘場



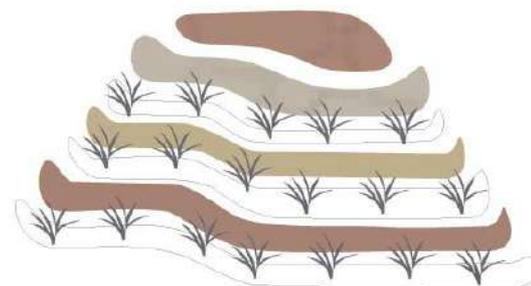
棚田

提案: 棚田の再生



現状: 土壌有機物

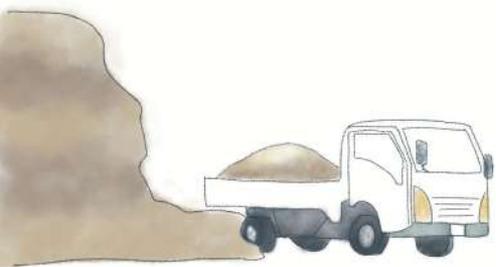
農地と耕作放棄地が混在。
このままでは耕作放棄地が増加し、棚田風景の荒廃が進む。



提案: 土壌の無機物化

耕作放棄地を土の風化場としての機能を与える。棚田風景は保たれる。

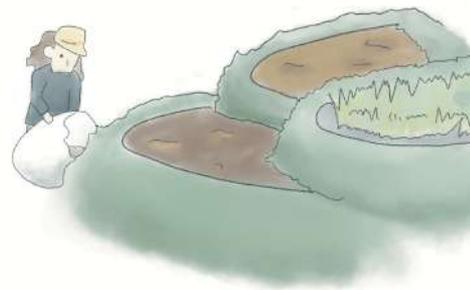
手法:土の風化フロー



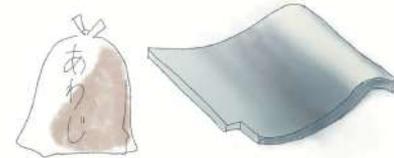
採掘



運搬

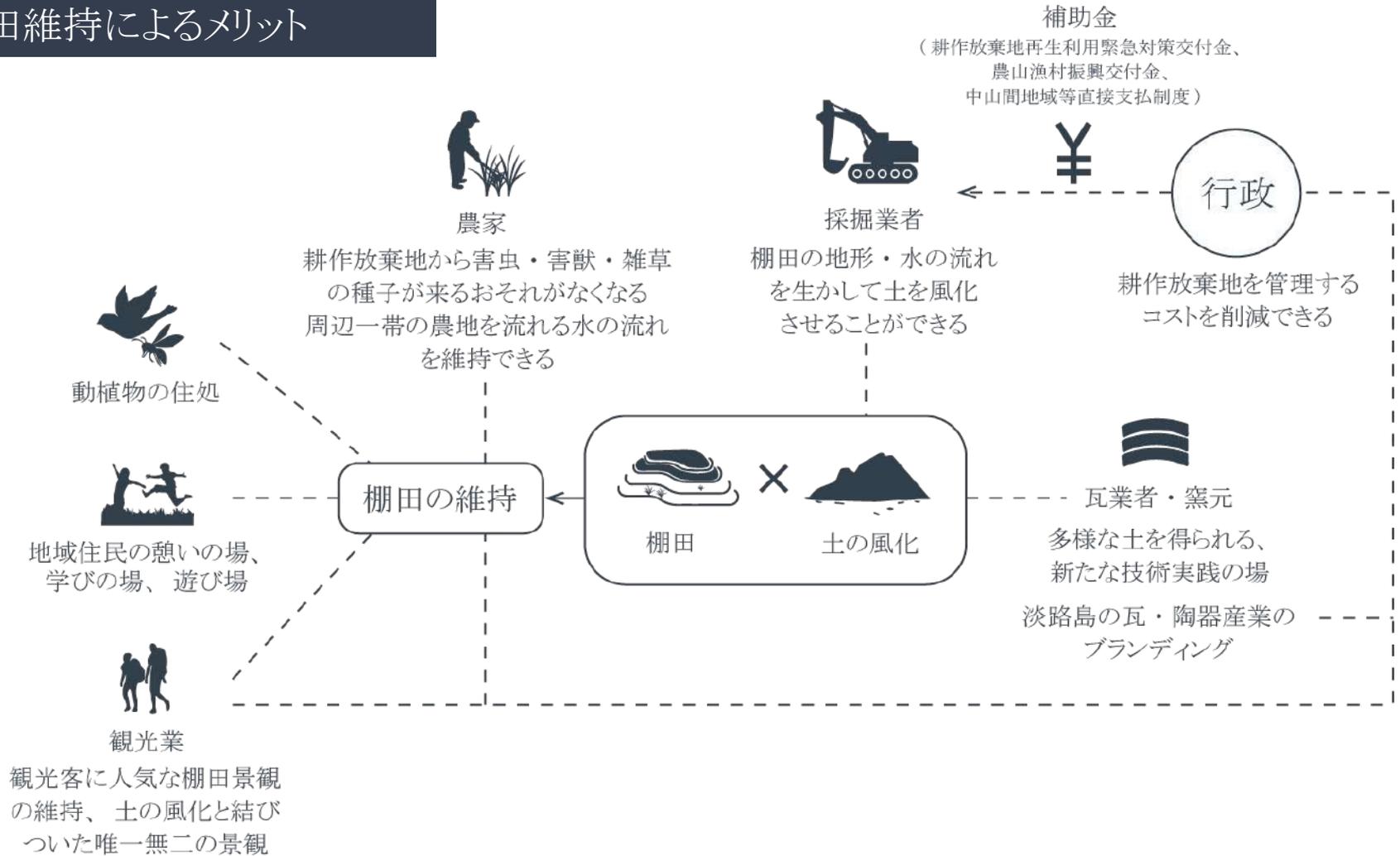


風化



出荷

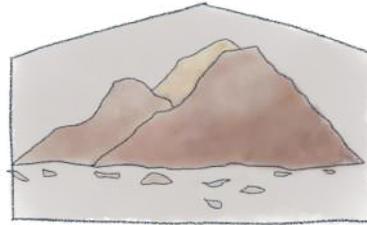
棚田維持によるメリット



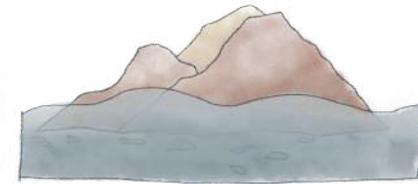
手法:三種類のさらし



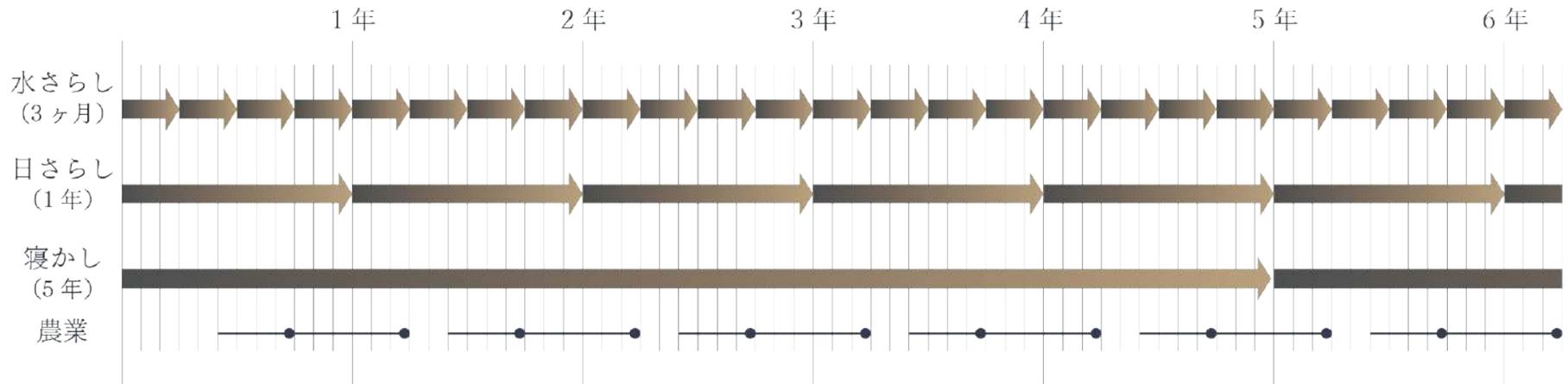
日さらし



ねかし



水さらし



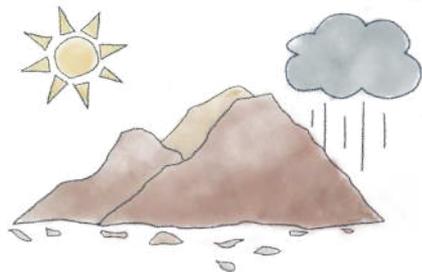
<3つの風方法を用いることで>

- ・風化スピードの違うさらしを可視化
- ・同じ土地でできた土から、異なる色の焼き物が作られていく過程そのものが風景となる

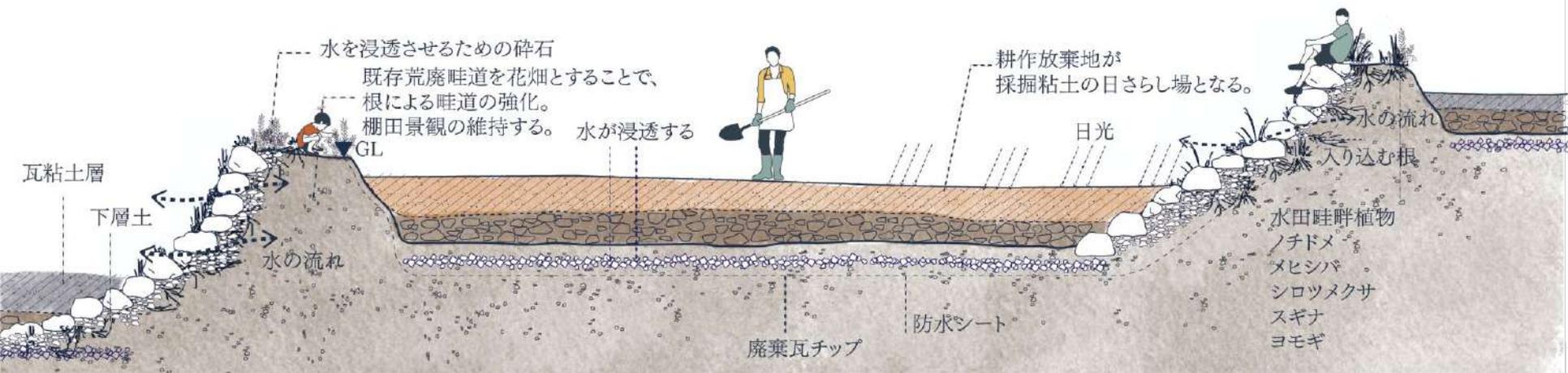
日さらし

1年 2年 3年 4年 5年 6年

日さらし
(1年)



棚田上に土を撒き、自然の力のみで風化させていく。
約1年で風化。



水さらし

1年

2年

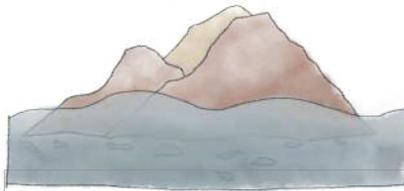
3年

4年

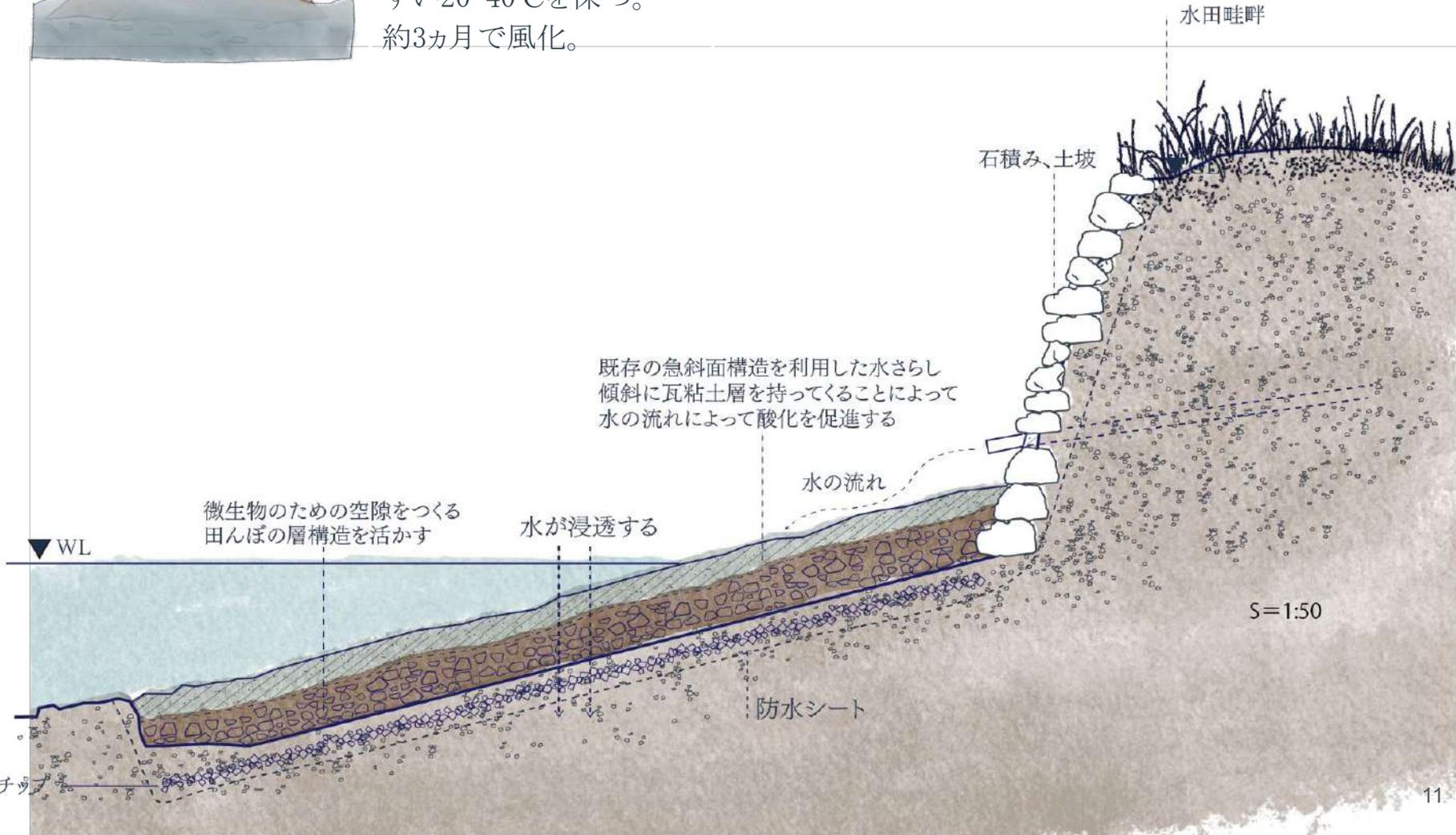
5年

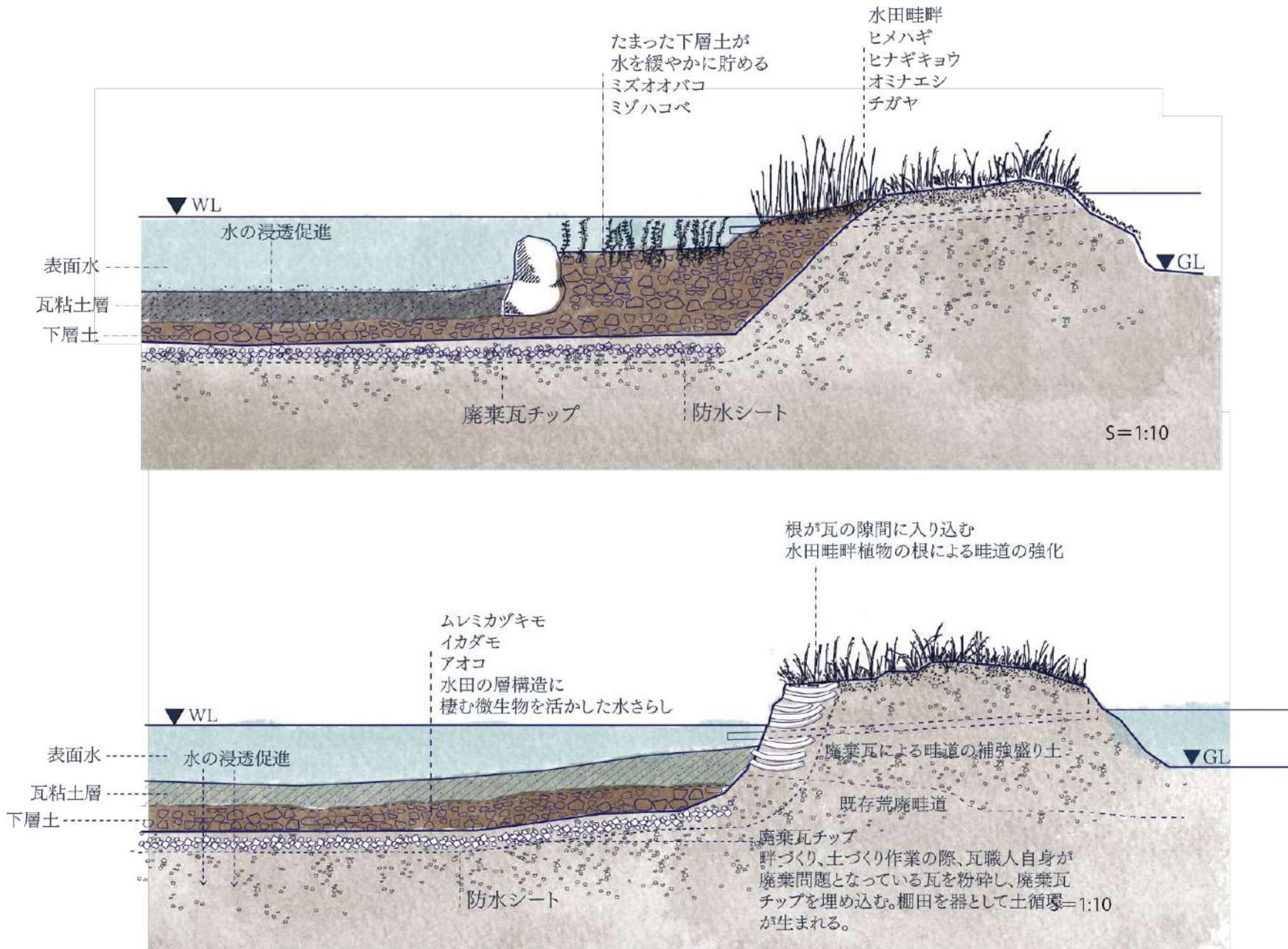
6年

水さらし
(3ヶ月)



畑に土を撒いた後、水を張る。微生物の過ごしやすい20-40℃を保つ。約3ヵ月で風化。





ねかし

寝かし
(5年)

1年

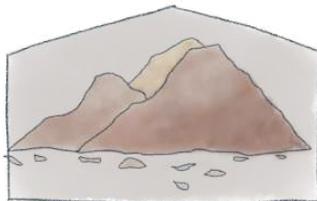
2年

3年

4年

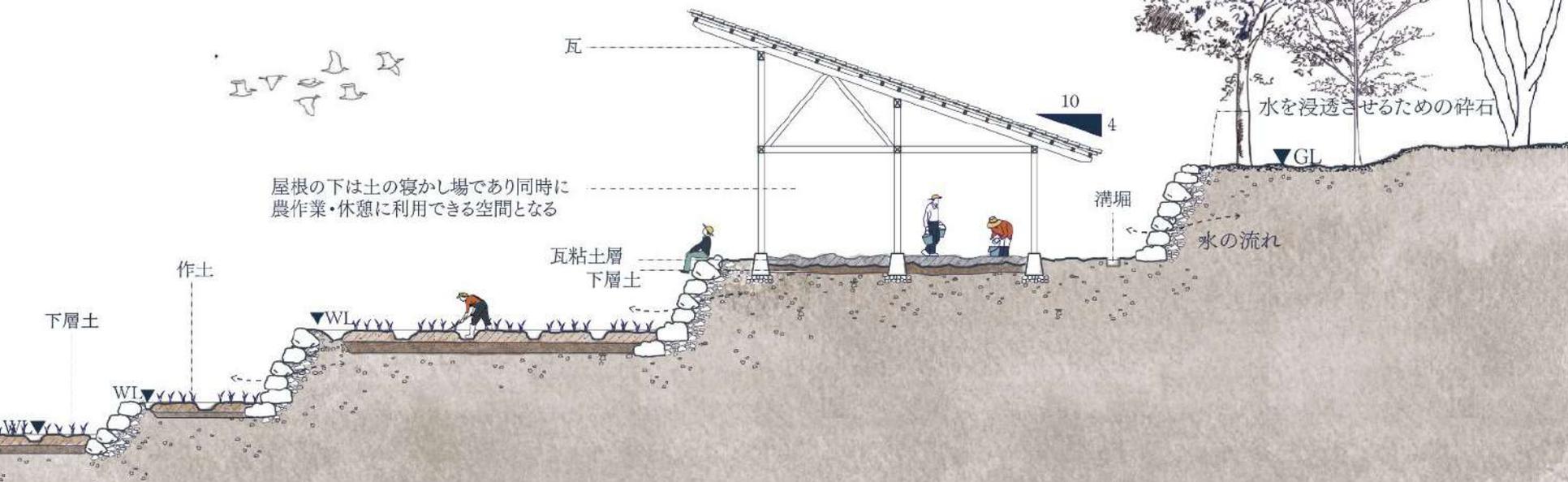
5年

6年



粘土内の水分量を保つため
屋根下で保存する方法。
約5年で風化。

夏は落葉樹が直射日光
を防ぎ、暑さを防ぐ。冬は
瓦が日射熱を集め、屋根
下空間を温める。



風化場の配置

道路・住宅



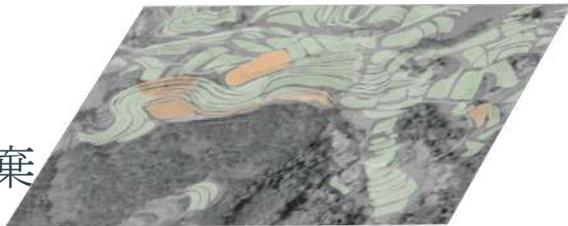
水の流れ



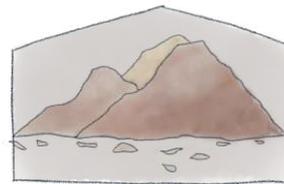
等高線



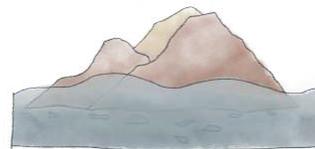
耕作維持/放棄



日さらし:
日光が当たりやすい場所

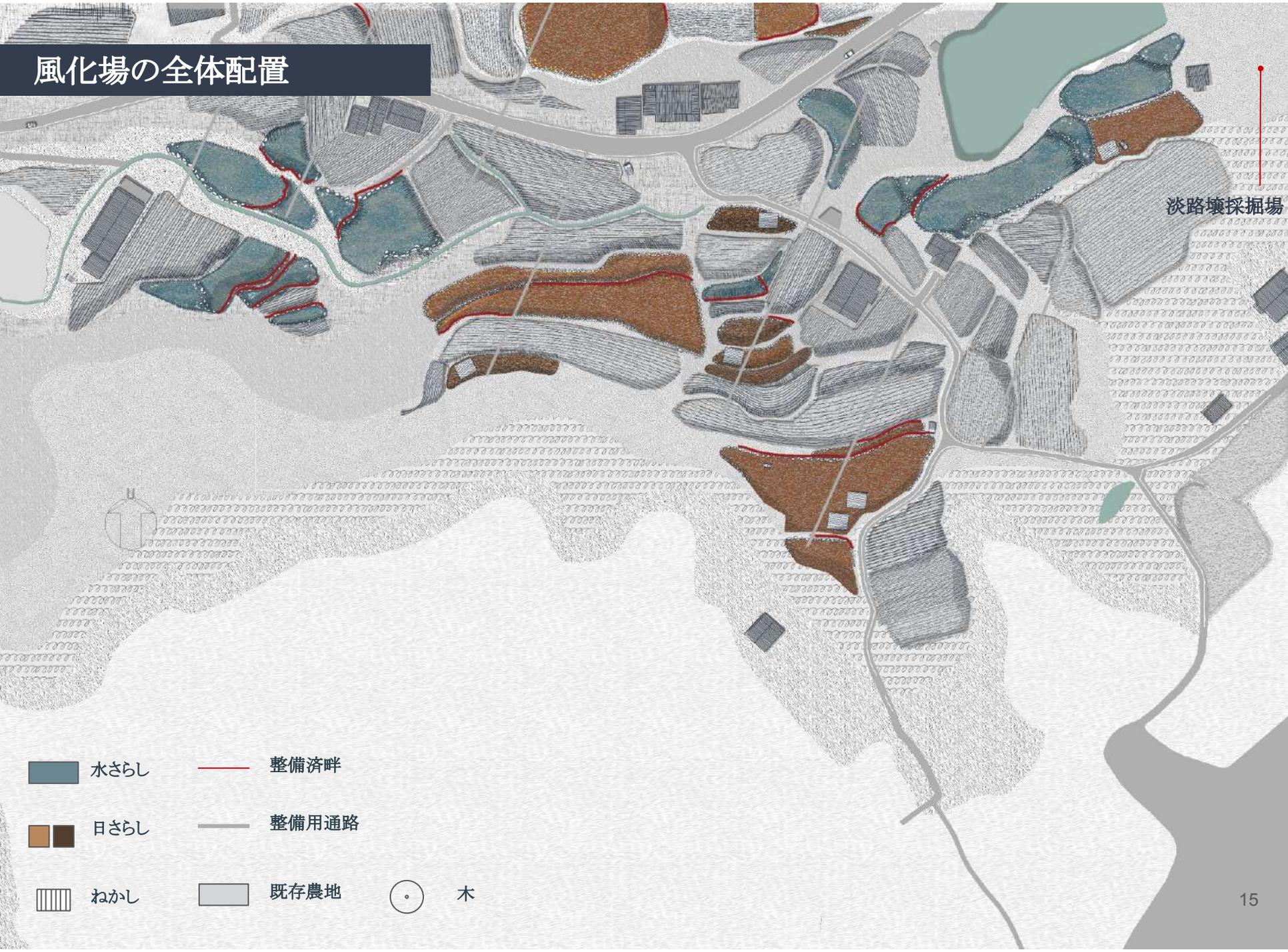


ねかし:
小屋を農作業に使って
もらいやすい場所



水さらし:
水路の近く

風化場の全体配置



淡路壊探掘場

水さらし

整備済畔

日さらし

整備用通路

ねかし

既存農地

木



将来像



農業空間(黒土)



土の風化場(赤土)

将来像



